



<学校適正規模・適正配置検討事業>

緑ヶ丘小学校・緑陽中学校 合同保護者意見交換会

- 期日 令和4年7月22日(金)
- 時間 19時～20時30分
- 会場 緑陽中学校体育館



The Ambitious City
—大志をいだくまち— HOKKAIDO 北広島市

< 本日の次第 >

< 1 教育委員会からの説明 >

- 1 本日の意見交換会の趣旨
- 2 現状と課題(学校の小規模化、学校施設の老朽化)
- 3 市の基本的な考え方
- 4 国が示す方策
- 5 保護者アンケートの結果

< 2 質疑応答・意見交換 >

< 1 教育委員会からの説明 >



- 緑ヶ丘小学校、緑陽中学校の子どもたちの教育環境を
どのように良くしていくか
- 教育環境を良くするための方策について、
市教育委員会として、現時点で答えはありません。
保護者や地域の皆さんと一緒に答えを探していきます。
- 本日は、答えを決めるための場ではありません。
- あくまで、**現状と課題などのご説明、意見交換の時間**です。

2 現状と課題①（学校の小規模化）



○令和4年度現在で小中学校とも1学級の学年があり、令和9年度も、この状況が継続するものと推計。

年度	項目	緑ヶ丘小学校							緑陽中学校		
		小1	小2	小3	小4	小5	小6	小・特別支援	中1	中2	中3
令和4年度	児童生徒数	38	50	26	37	35	36	6	36	33	43
	学級数	2	2	1	2	1	1	3	1	1	2



令和9年度	児童生徒数	26	28	28	41	39	38		50	26	37
	学級数	1	1	1	2	2	2		2	1	1

※令和9年度推計は、令和4年4月時点における住民基本台帳に基づき推計したものです。令和9年度の特別支援学級については、現時点で推計できないものです。

※学級数は、令和4年度現在の制度に基づき推計しています。

○小学校 ~ ①国の制度～小学3年まで35人学級。以降、学年進行で拡大(令和5年度は小学4年、令和6年度は小学5年、令和7年度は小学6年)。
②北海道の独自の制度～小学4年を35人学級。

○中学校 ~ ①国の制度～1学級40人。
②北海道の独自の制度～中学1年について、学年71人以上の場合、1学級35人(70人以下の場合及び中学2、3年は40人学級)。

2 現状と課題②（学校の小規模化）

※参考※



The Ambitious City
一大志をいだくまち一 HOKKAIDO 北広島市

○広葉中学校区は、令和9年度に小学2年生で1学級、また、令和9年度の小学1～4年生が中学校に進学した際、各学年1学級になると推計。

年度	項目	双葉小学校							広葉中学校			
		小1	小2	小3	小4	小5	小6	小・特別支援	中1	中2	中3	中・特別支援
令和4年度	児童生徒数	45	52	47	52	45	57	13	59	42	50	4
	学級数	2	2	2	2	2	2	4	2	2	2	2



令和9年度	児童生徒数	37	31	37	36	43	45		52	47	52	
		2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2

※令和9年度推計は、令和4年4月時点における住民基本台帳に基づき推計したものです。令和9年度の特別支援学級については、現時点で推計できないものです。

※学級数は、令和4年度現在の制度に基づき推計しています。

○小学校 ~ ①国の制度～小学3年まで35人学級。以降、学年進行で拡大(令和5年度は小学4年、令和6年度は小学5年、令和7年度は小学6年)。
②北海道の独自の制度～小学4年を35人学級。

○中学校 ~ ①国の制度～1学級40人。
②北海道の独自の制度～中学1年について、学年71人以上の場合、1学級35人(70人以下の場合及び中学2、3年は40人学級)。

2 現状と課題③（学校施設の老朽化）



学校区	学 校	棟区分	建築年度	築年数 (R4年度基準)	延床面積	階層	構造	備考
緑陽中学校区	緑ヶ丘小学校	校 舎	S50年度 (1975年度)	47年	4,390m ²	2階	鉄筋コンクリート造	暖房設備(H27更新)
		体 育 館	S51年度 (1976年度)	46年	817m ²	1階	鉄筋コンクリート造	暖房設備(H27更新)
	緑 陽 中学校	校 舎	S52年度 (1977年度)	45年	4,248m ²	2階	鉄筋コンクリート造	暖房設備(R3更新)
		校 舎 (北側教室棟)	S58年度 (1983年度)	39年	1,069m ²	2階	鉄筋コンクリート造	暖房設備(R3更新)
		体 育 館	S53年度 (1978年度)	44年	1,034m ²	1階	鉄筋コンクリート造	暖房設備(R3更新)
	(参考) 広葉中学校区	双 葉 小学校	校 舎	S49年度 (1974年度)	48年	2,979m ²	2階	鉄筋コンクリート造
			校 舎 (南側普通教室棟)	S50年度 (1975年度)	47年	1,512m ²	2階	鉄筋コンクリート造
			体 育 館	S50年度 (1975年度)	47年	674m ²	1階	鉄骨鉄筋コンクリート造
		広 葉 中学校	校 舎	S48年度 (1973年度)	49年	5,442m ²	2階	鉄筋コンクリート造
		体 育 館	S49年度 (1974年度)	48年	957m ²	1階	鉄筋コンクリート造	暖房設備(H27更新)

3 市の基本的な考え方①



○令和2年3月、市通学区域審議会からの答申を踏まえ、適正規模に関する基本方針を決定。

小学校	12学級～18学級 (1学年2学級～3学級)
中学校	6学級～18学級 (1学年2学級～6学級)

3 市の基本的な考え方②

○適正規模に関する基本方針は、学級数が少なくなることのメリット・デメリットを検討し、決定。

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none">○児童生徒一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな指導が行いやすい。○学校行事等において、児童生徒一人ひとりの活躍の機会を設定しやすい。○異学年との交流の機会が設定しやすい。○特別教室など施設の利用時間の調整が行いやすい。○全教員による児童生徒一人ひとりについて把握がしやすい。○教員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密になりやすい。○保護者や地域社会との連携が図りやすい。	<ul style="list-style-type: none">○児童生徒が多様な意見に触れる機会が設定しにくい。○話し合い活動、体育科の球技や音楽科の合唱・合奏のような集団学習の実施に制約が生じる。○クラス替えがないまま何年も過ごすと、人間関係が固定化し、個々のチャレンジが生まれにくいなどの弊害が考えられる。○中学校では、免許外指導が生じ、教員の教科指導の負担増とともに、適正な指導や評価に影響が出る可能性がある。

3 市の基本的な考え方③

- 適正規模に関する基本方針は、適正規模化等の検討が必要な学校を考える上での基準。
- 実際の学校の適正規模化や適正配置、学校を統合しないなどの選択にあたっては、教育機会の均等や教育水準の維持向上を踏まえながら、保護者や地域住民の意見、地域の特性などに応じて慎重に検討。

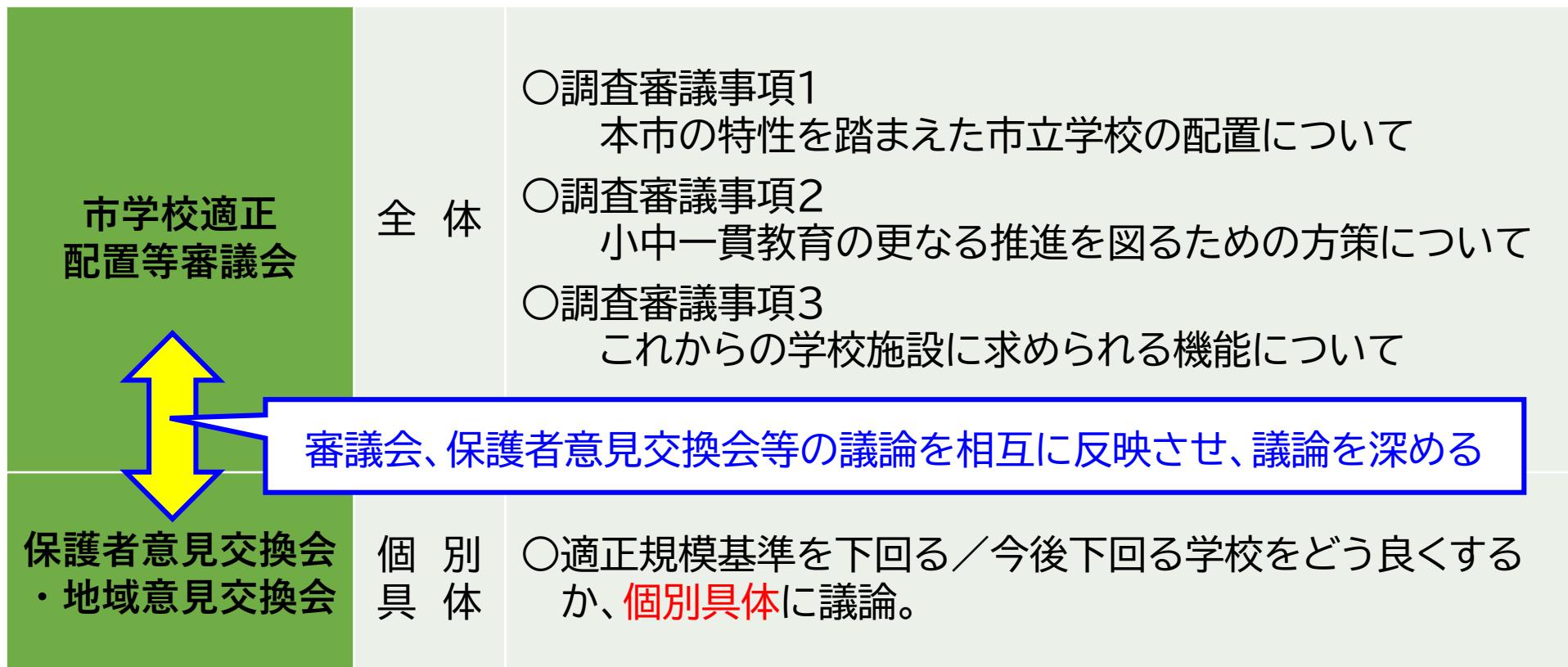


- 6月21日～7月1日 保護者アンケート
- 本日の保護者意見交換会

3 市の基本的な考え方④



- 並行して、市学校適正配置等審議会にて審議。
- 全市立学校の今後の在り方に関する基本的な考え方について審議。



○文部科学省は、学校規模の適正規模化を図るための手段を例示。

(1) 通学区域の見直し

(隣接する大規模校の人数を減らし、小規模校の人数を増やす)

(2) 学校の統合

※様々な事情から(1)、(2)によって適正規模化を進めることが困難な場合、
小規模校のデメリットを最小化し、メリットを最大化する方策を検討



(3) その他

① 小中一貫教育の導入

② 小規模特認校制度の導入 (山村留学、漁村留学)

→ 文部科学省の例示を参考に、一緒に検討

5 保護者アンケートの結果①



【2】児童生徒数及び学級数の将来推計について (推計内容)

令和4年度現在で小中学校とも1学級の学年があります。令和9年度も、この状況が継続するものと推計されています。

年度	項目	緑ヶ丘小学校							緑陽中学校			
		小1	小2	小3	小4	小5	小6	小・特別支援	中1	中2	中3	中・特別支援
令和4年度	児童生徒数	38	50	26	37	35	36	6	36	33	43	3
	学級数	2	2	1	2	1	1	3	1	1	2	2

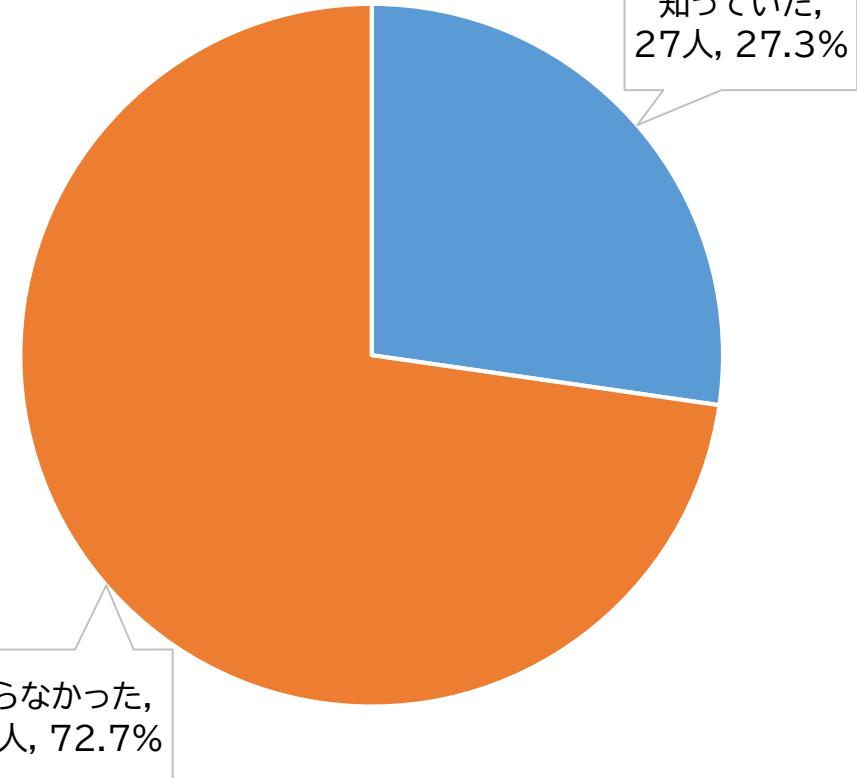


令和9年度	児童生徒数	26	28	28	41	39	38	/	50	26	37	/
		学級数	1	1	1	2	2	2	/	2	1	1

※令和9年度推計は、令和4年4月時点における住民基本台帳に基づき推計したもので、令和9年度の特別支援学級については、現時点では推計できないものです。

※学級数は、令和4年度現在の制度に基づき推計しています。(小学校は、段階的に35人学級を導入し、令和6年度に全学年1学級35人以下。中学校は、1年生のみ学年71人以上の場合、1学級35人。1年生が70人以下の場合及び2、3年生は1学級40人。)

<回答総数> 99件
緑ヶ丘小 81/181(44.8%)
緑陽中 33/104(31.7%)
※上記には兄弟姉妹等で重複する者15件を含む

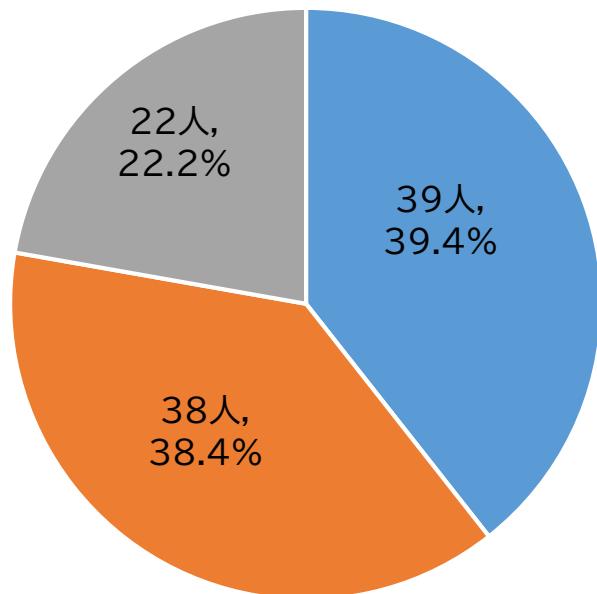


■ 知っていた ■ 知らなかった



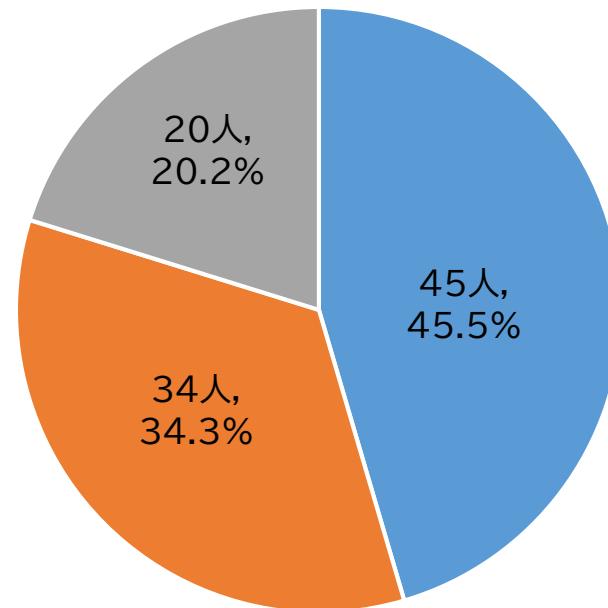
【3・4】小・中学校の適正な規模について

小学校の適正な規模



- 1学年2学級以上が良い
- どちらかと言えば、1学年2学級以上が良い
- 1学年1学級でも良い

中学校の適正な規模

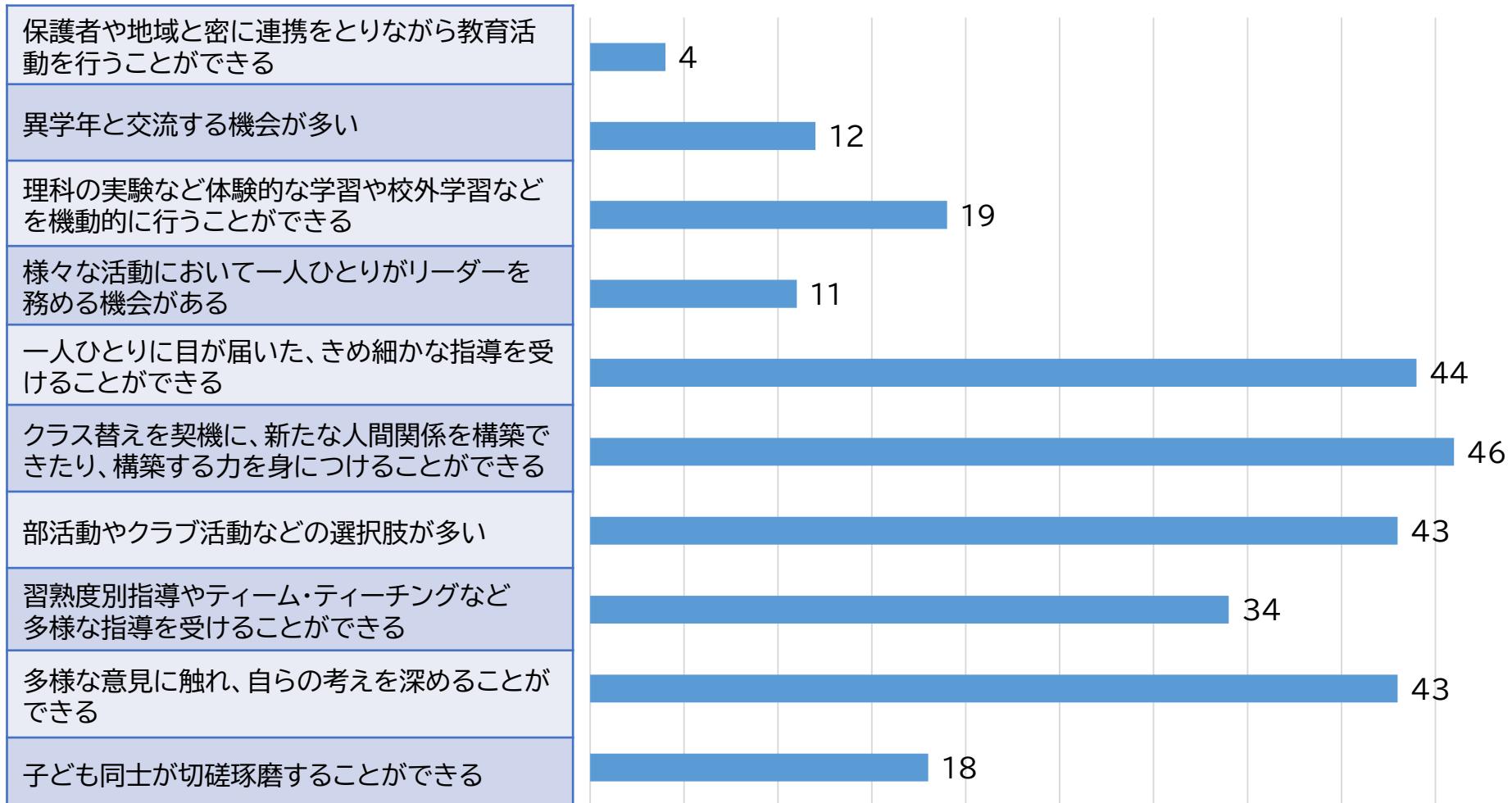


- 1学年2学級以上が良い
- どちらかと言えば、1学年2学級以上が良い
- 1学年1学級でも良い



【5】今後の市立学校に期待する教育環境

(多肢選択3つまで)



5 保護者アンケートの結果④



【6~9】小・中学生の妥当な通学距離と通学時間

【小学生】

通 学 距 離	
2 km以内	54 (54.5%)
3 km以内	23 (23.2%)
4 km以内	21 (21.2%)
6 km以内	1 (1.0%)

通 学 時 間	
30分以内	87 (87.9%)
45分以内	10 (10.1%)
1時間以内	2 (2.0%)

【中学生】

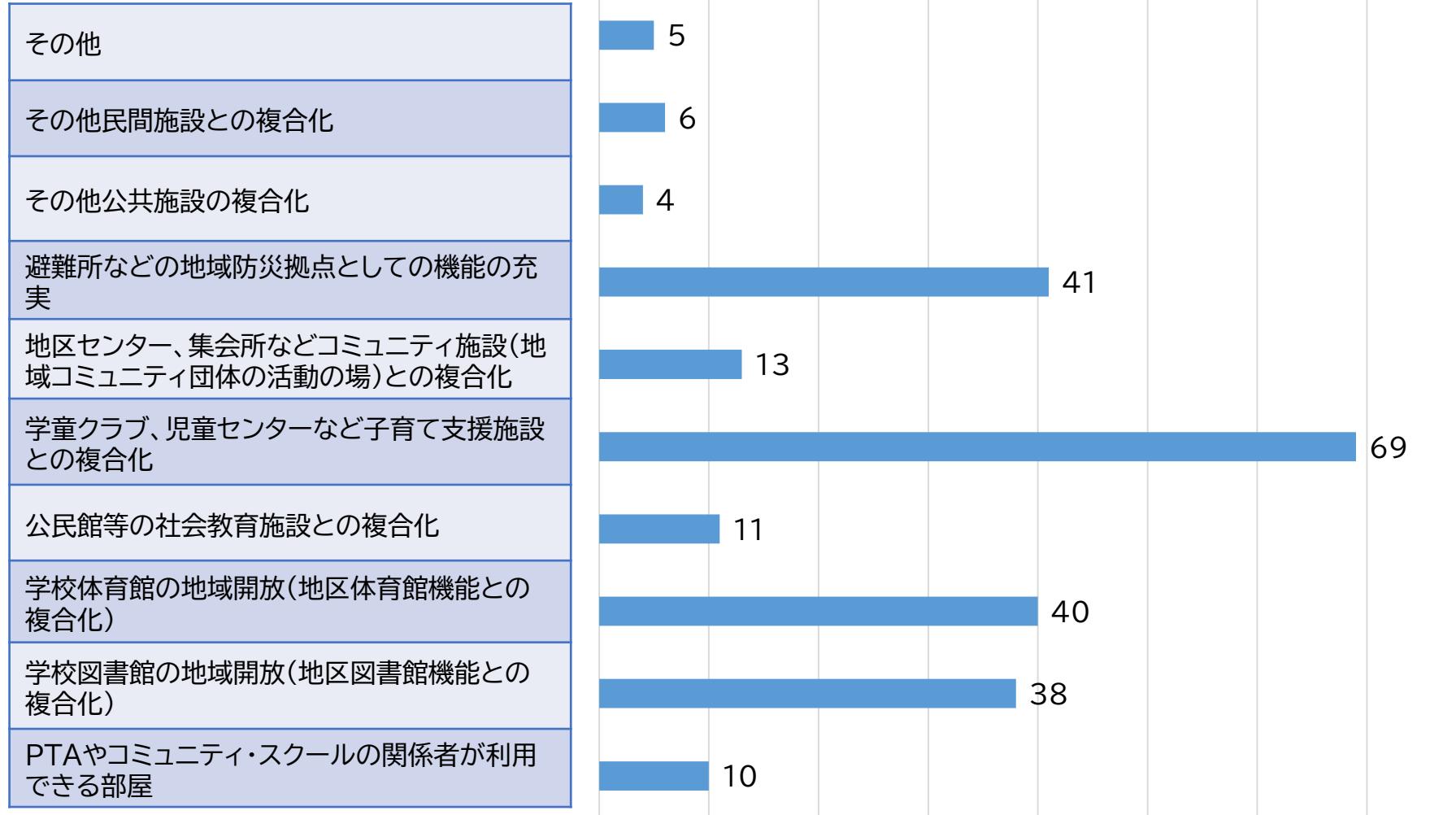
通 学 距 離	
2 km以内	18 (18.2%)
3 km以内	28 (28.3%)
4 km以内	31 (31.3%)
6 km以内	22 (22.2%)

通 学 時 間	
30分以内	67 (67.7%)
45分以内	25 (25.3%)
1時間以内	7 (7.1%)



【10】今後の学校施設に期待する機能

(多肢選択3つまで)



5 保護者アンケートの結果⑥



その他自由記述

西部中学校区	<ul style="list-style-type: none">民間の習い事事業者等が入り、学校内ができると良い。中学の部活動が少ないために他校に行く生徒が多いと思う。さらに増やしたい部活動の意見も重視して欲しい。
広葉中学校区	<ul style="list-style-type: none">自習室、友達とおしゃべりできる部屋、Wi-Fi環境のあるパソコン室、進路指導室（小学校にも、中学は1年から3年まで誰でも入れるように）音楽室の地域開放(合唱団、ミュージカル団体などへ)。学校の持つ機能を地域開放する選択肢が複数ありましたが、教職員がその対応をするのであれば反対です。教育に専念させてあげてほしい。
緑陽中学校区	<ul style="list-style-type: none">習い事を学校で出来る事。もしくは習い事のバスの停留所と待機場所。昨今、遅い時間の歩帰宅は心配が多いので、中学生は距離に関係なく雪時期以外は自転車通学を許可して欲しい。その為の駐輪場を整備して欲しい。子供向けの各分野のあらゆる習い事が学校でできるように、一般にも開放。ただし、子供教室・教育に限る（アート・お花・習字・化学・パソコン・プレゼンの講義など）。親も共働き家庭が多く、放課後、子供たちだけの時間ができてしまうのが不安。大人（親、親以外も含め）と子供が一緒に過ごせるコミュニティがあればいいなと思う。衛生的な飲料水が供給される水飲み場。休み時間に行列で水が飲めない学校環境は異常だと思います。衛生的なトイレ。安全な床。大人数が使える水飲み場。室内、室外両方。
北の台小学校	<ul style="list-style-type: none">ボールパークができ、人口が増加する可能性があるのに、今併合の判断をするのは時期尚早である。アンケートの項目も併合ありきな文言であるよう感じる。自由記述を増やし、多様な意見を聞くべき。

※施設に関するご意見以外についても掲載しています。

< 2 質疑応答・意見交換 >

本日は大変ありがとうございました

<北広島市教育委員会ホームページ>

○適正規模・適正配置検討事業

<https://www.city.kitahiroshima.hokkaido.jp/kyoiku/detail/00145459.html>



○北広島市立学校適正配置等審議会

<https://www.city.kitahiroshima.hokkaido.jp/kyoiku/detail/00145479.html>



<お問い合わせ先>

北広島市教育委員会 教育部 教育総務課

(メールアドレス)edusoumu@city.kitahiroshima.lg.jp